

学生ピアサポート活動に対する担当教職員の関わり方

——2023～2024年度のピアサポート活動を振り返って——

古川 裕之¹，神代 末人²，三枚 奈穂²

【要約】

2023年度から学生相談センターではピアサポート活動を開始したが，導入間もなくピアサポーター学生のみでの活動には限界があるため，教職員が活動のバックアップに当たっている。本報告では2024年度までの活動を取り上げ，どのような形で教職員が学生サポーターの活動に関わったかを振り返った。その結果，イベント実施時の諸手続きや必要物品の手配，当日の見守り，学外研修会等参加時の引率，定例ミーティング開催，各種広報，ピアサポーターの養成，実際の活動に伴う大学内の事務手続き，等を行ってきたことを確認した。ピアサポート活動は学生が学生に対して実施するものであるため，教職員が前面に出ることは控えているが，活動実施に際して様々な形で学生と教職員が協働することに意義があると考えられる。

【キーワード】

ピアサポート活動，学生と教職員の協働，学生支援

1 京都大学におけるピアサポート活動の導入

京都大学にピアサポート活動を導入することの意義については，前稿で詳細を述べた（古川，2024）。本稿では，2023～2024年度にどのような活動を行ったか，その際にピアサポーター学生をバックアップする教職員の筆者らがどのような立ち位置で関わってきたかを振り返りたい。

前稿にある通り，2023年度には全学共通科目のILASセミナーで「ピアサポート入門」を開講し，その受講者の中で希望する学生（当初4人）をピアサポーターとして認定し，具体的な活動について検討を始めた。その際に，どのようなコンセプト・理念で活動を行うかについてピアサポーター学生で検討し，以下を活動方針とした。

- ① 大学生活をより充実したものにする
- ② サークル，授業，バイト等と異なる形で学生のつながりのきっかけを作る
- ③ 学生の需要やアイデアを具体的な形にする活動を通じ，学生の疎外感や孤立を和らげる

この方針を基に，どのような活動を行うか検討し，可能なものから着手することとした。次章ではそれらを具体的に見ていきたい。

¹ 学生総合支援機構・学生相談部門・准教授

² 学生総合支援機構・学生相談部門・特定専門業務職員

2 2023～2024年度の活動の振り返り——各活動に対する教職員の関わり方を含め

2.1 相談活動（リプライボックス・新入生なんでも相談会・昼休みおはなし会）

2023年12月から、吉田南総合図書館内に「ピアサポーター・リプライボックス」を設置し、学生からの相談、大学内にあったら良いなと思うもの・ことを投書してもらい、ピアサポーターがその返事を書いてポストの後ろの柱に張り出している。2023年度当初は目新しさのためか、途切れることなく24件の投書があったが、2024年度は残念ながら投書数が減り4件だった。投書への回答をピアサポーター学生が行う際、当初は教職員が複数提示した解答例を参考の上で作成してもらった。また、教職員が回答案のチェックを行い、必要な場合は修正をしてもらい回答として完成させる形を取った。この過程は、コミュニケーションツールのslackで行い、回答しない学生もその経過を追えるようにし、それぞれが他の投書への回答を作成する際の参考としてもらった。

2024年4月には、対面による「新入生なんでも相談会」を2回実施した。上記の「ピアサポーター・リプライボックス」は投書による非同期・非対面での相談と言えるが、新入生が問題・困りごとを多く抱えるであろう4月には相談の機会が必要と考え、対面での相談会を行った。しかし、残念ながら来室者はいなかった。広報の問題など、様々な点で課題があったと考えられるが、対面での相談機会の提供は必要と考え、新入生に限定しない形でそれ以降も対面での相談機会を設けることとした。

具体的には、2024年6～7月にかけて「昼休み相談会」を実施したが、この活動でも来室者がいなかった。実施場所の問題の可能性、また「相談」という表現は学生にとって敷居が高い（何か相談したいことが明確でないと利用しにくくなる）ことを踏まえ、2024年11月から2025年1月にかけて、吉田南総合図書館の協力を得て一室を借り、「昼休みおはなし会」を実施したところ、延べ9人が来室した。「昼休み相談会」「昼休みおはなし会」どちらも、複数のピアサポーターが在室して来室学生に対応するが、その近くで筆者ら教職員が待機する形を取り、対応が難しい事態などが生じた際に介入できるようにした（実際にそのような事態は今のところ起きていない）。

2.2 交流イベント（ともだち100人できるかな？・京大生井戸端会議）

2024年2月・6月・9月・2025年2月に「ともだち100人できるかな？」と題した交流イベントを実施した。これは、カードゲームや調理（かき氷作り・たこ焼き作り）などを通して参加学生が交流し、その後はお茶とお菓子を囲んで自由に交流するイベントである。どの回も参加者アンケートは好評を得ており、また「色々な学部、大学院、国の人と話せて楽しかった」「出会った人に進路相談を聞いてもらって、とても助かりました。この交流会が無いと出会わない人と話せて楽しかったです」「ピアサポーターの皆さんがとても親切に接してくださったので楽しく3時間過ごすことができました」といった感想が寄せられた。日常的に接する機会が少ない他学部・異なる学年・留学生等との交流が促進され、参加学生にとっては有意義な場となっていたと考えられる。また、このような交流の場が和やかな雰囲気になるようピアサポーター学生が努めていたことも参加者から評価された。

また、上記イベントとは別に「京大生 井戸端会議」を夏休み（9月）と春休み（3月）に実施した。春休みには残念ながら参加者がいなかったが、夏休みは実施した3回それぞれに複数名の学生が参加した。このイベントは、上記の「ともだち100人できるかな？」と同様に学生の交流を目的としているが、より「話し合う」ことに焦点付けたものである。具体的には、夏休みに実施した際は「夏休みどうしてる？」「バイトに関するあれこれ（バイトしていない人も歓迎）」「進路・就職ってどうする？」というテーマを設定し、それに沿って、ピアサポーター学生を含めて参加者で自由に話し合った。このイベント趣旨は、ピアサポー

ト活動に対してある学生から寄せられた要望に応える形で実施したものである。寄せられた要望は、「身の回りの大きくはないけど、なんとなく抱えている不安や悩み事についてお互いに話せる場やイベントを設けてほしい」というものであった。参加者アンケートでも好評を得ており、「『井戸端会議』さながらの自由で開放的なおしゃべりができてとても楽しかった」という感想も寄せられた。京大生がある特定のテーマについて話す、というのは授業でのディスカッションや特定の興味を共有するサークル活動などでは日常的に行われることかもしれないが、逆に言えば、それ以外の場で京大生同士がそのような機会を持つことは非常に少ないかもしれない。これは前稿（古川，2024）でも言及したことだが、異質なものと出会うことが難しくなりつつある現代の大学生にとっては、他の京大生と出会い話す機会は意味ある体験になったと考えられる。ちょっとした悩みなどを気軽に共有できる機会・場所を求める声は他の学生からも寄せられるが、「昼休みおはなし会」などの形でピアサポート活動としても今後も応えていけると良いのではないかと考えられる。

なお、この2種類のイベント実施にあたり、イベント当日の運営は全てピアサポーター学生が担当し、教職員は、会場手配、申込管理、広報周知、茶菓の用意などを行ったが、当日は会場の脇で見守るだけとし、学生間の交流には関与しなかった。

2.3 啓発・応援イベント（世界メンタルヘルスデー・ほっと一息しませんか）

10月10日の「世界メンタルヘルスデー」に合わせ、ピアサポート活動の周知も兼ねた簡易ストレスチェックを実施した（宇治相談室のOPEN DAYで実施したものを参考にさせていただいた）。昼休みに吉田南構内に屋外テントを設置し、手のひらの発汗によるストレス度合いを測る「リラックス度チェッカー」を実施した。参加学生には匿名で自身の学部とストレス度合いで該当するところにシールを貼ってもらう街角アンケートのような形を取った。また、参加学生には、ピアサポート活動のロゴをあしらったモバイルクリーナー、ピアサポーター学生からの世界メンタルヘルスデーに合わせたメッセージ、ピアサポーター学生のストレス対処法を記した用紙を配布した（図1・2）。

また、後期定期試験が始まる前の2025年1月15日の昼休みに「ほっと一息しませんか」と題して、吉田南総合図書館前にてあたたかい飲み物を提供する応援イベントを実施した。

どちらのイベントに際しても、教職員は学内での集会許可願の提出、ノベルティグッズ（モバイルクリーナー、ピアサポート活動のロゴを記した紙コップ）の作成、必要物品の購入、広報周知などを行った。また、イベント当日も荷物の運搬・設営を行ったが、他のイベント同様に、参加学生への対応は基本的にピアサポーター学生が行い、教職員の関与は最小限に留めた。

2.4 研修・他大学活動報告会参加、意見交換会（ぴあのわ・関西大学・鳥取大学）

京都大学におけるピアサポート活動は開始間もないため、他大学での実践を知ることはピアサポーター学生にとって非常に意味が大きい。そのため、ピアサポート活動に関する研修機会についてはピアサポーター学生に周知し、積極的に参加してもらっている。2023年度・2024年度共に、「全国大学ピアサポーター合同研修会：ぴあのわ」に参加した（2023年度主催校：北星学園大学，2024年度主催校：大阪経済大学）。ぴあのわ参加の際の参加費・交通費・宿泊費（2023年度のみ）は大学経費での支出とし、参加したピアサポーター学生には、参加報告を作成してもらい、参加しなかった学生にも共有することで、研修内容を共有した。学生の参加に関する学内の諸手続きを行った上で、当日も教職員は引率という形で同行し、全国の大学でピアサポート活動を担当する教職員と様々な形で意見交換・交流し、他大学のピアサポート活動実践の様子を知ることができた。

同様に、2025年2月25日に実施された「2024年度 関西大学ピア・コミュニティ活動報告会」にもピアサポ-

SSC
Kyoto Univ.

京都大学学生総合支援機構学生相談センター
ピアサポート活動

Peer Support
Kyoto University

10月10日は世界メンタルヘルスデーです

当日昼休み総入場でリラックス度チェック実施します！

後期授業が始まりましたが
気分が落ち込む、朝起きられない、話が頭に入らないなど
これまでと違う不調を感じていませんか？

自分の心の声、ちゃんと聞いていますか？
不調に気づいた時、どうしますか？
不調を感じていそうな人に気づいたら
勇気を出して挨拶をしたり声をかけてみませんか

京都大学内には相談できるところがたくさんあります
「**私たちピアサポーターも、そのひとつです**」
同じ学生同士だからこそ、分かり合えることがきっとある

「相談」って言うほどでなく
何気ない会話をしてみませんか
ふらっと、そっと、話しに来てほしい

あなたはひとりじゃない
誰かとつながってほしい

#ココロに聞いてみよう

ピアサポート活動「昼休み相談会」の今後の実施予定はSNSで確認ください

世界メンタルヘルスデー 2024
～つながる、どこでも、だれにでも～

図1 ピアサポーター学生からのメッセージ

頭がスッキリしない時だけでなく、
体が少しだるい・・・という時にも、
運動はおすすめです！ 寝はかったり
としたジョギングは疲労回復効果
があるとか！? 疲れてるな～という時
こそ、体を積極的に動かすように
しています！ 集中力UPにも効果があ
りますよ！

散歩する

なんとなく不調だな～という時には、
ヨガをやって体をほくすことが
多いです！ 心と体は繋がっているもの。
体を動かすだけで、心の
モヤモヤまで吹き飛んでしまうこと
もあります！

ハッピー：体の内側から温める
ことで安心感が得られる良い香り
でリラックス効果もあります！ 最近は
100円ショップで手軽に買えるものも
あるので、ぜひ一度試してみてください！

（酸欠で頭が動かなくなるくらい）思いっきり走ったり、
運動してもよいかも！

2024.10.10
**ピアサポーターの
ストレス対処法・解消法**

掃除の作業員の方でも、ルーム
メイトでも、食堂の店員さんでも、
クラスメートでも、身近に
いる人に他愛のない話とか雑談
したりしたら、気がまぎれる
かも！

対面で話すのが難しかったら、
親しくした友人や家族に
電話したり、チャットしたり
したら、良いかも！

何に対してストレスが溜まっている
のかを紙に書いたり、当事者ではない
人（大学の人間関係で悩んでいる
なら、地元の友達とか）に相談して
みる。言語化してみると、悩んでいた
ことが意外と小さなことだったと
感じられるかもしれないです

ぼーっと空を見上げてみる

とにかく寝る

音楽を聴く

定期的な一日中何もすべきことが
ない日を作り、心のままに
だらだらすること

やけ食いする
（ほどよく...）

図2. ピアサポーターのストレス対処法

ター学生と教職員が参加した。ぴあのわほどの規模ではないが，他大学で行われているピアサポート活動についての報告を聞く貴重な機会となった。

上記2件とは別に，鳥取大学学生支援センターからピアサポート活動に関する意見交換の依頼を受け，2025年3月6日に筆者ら教職員とピアサポーター学生1名と共に，本学にて先方と意見交換を行った。鳥取大学もピアサポート活動を開始して間もないという点で本学と似た状況にあり，どのようにピアサポート活動を学内に周知・定着させていくかなど様々な点について検討することができた。

2.5 定例ミーティング

試験期間や長期休み中を除き，毎週金曜日の昼休みにピアサポーター学生と教職員によるミーティングを実施している。現時点ではミーティングは教員の古川が主導で議事進行し，ピアサポーター学生が様々な意見を出す中で，どのような活動を行っていくかを決める形を取っている。将来的には，ピアサポーター学生主導でミーティングを実施し，教職員は活動に対する助言を行う程度に関与を減らすことができれば良いと考えているが，活動を始めて間もなく，またピアサポーター学生の人数も多いわけではないため，筆者らも学生と同程度の関与の仕方となっている。なお，このミーティングは参加必須ではなく，各ピアサポーター学生の授業など他の用事の優先も可能としている。また，長期休み中で京都にいない場合など，オンラインでの参加も可能としている。ミーティングで話し合った内容はslack内で共有し，必要に応じてslack内で意見を求める形としている。

なお，このミーティングの場はピアサポーター学生間だけでなく，教職員とピアサポーター学生間の交流の機会にもなっている。必ずしも毎週全員がミーティングに参加するわけではないので，しばらくミーティング参加が空いた学生の近況を尋ねることもあれば，日々の大学生活の忙しさや大変さなどを聞く機会にもなっている。また，学生年代ではない教職員側が分からない学生生活の実態（大学内の諸制度やシステム，SNSの利用など）について教えてもらう機会にもなっている。

2.6 イベント等のチラシ作成，ホームページ・SNS等による広報

現在ピアサポート活動の広報は，学生相談センターホームページに加え，ピアサポート活動専用のX（旧Twitter）・Instagramを運用し，イベント等の広報を行っている。また，イベント等については大学の教務情報システムKULASISに加え，大学内で掲示可能な箇所への掲載も依頼している（デジタルサイネージ含む）。これらの媒体での情報発信は全て教職員が担当している。学生相談センターホームページ，KULASISへの掲載は教職員のみが可能なためやむをえないが，SNSの情報発信については，ピアサポーター学生に担当してもらうことも可能ではある。しかし，情報発信を行う学生の負担になること，学生が自由に発信した際に起こりうる様々なリスクなどを勘案した結果，現時点では学生ではなく教職員が担当しての運用としている。とはいえ，やはりSNSの運用は学生の方が得意だと考えられるため，ピアサポーター学生が増えていけば担当してもらいたいと考えている。その際には，ピアサポーター・リプライボックスのように教職員のチェックを経た上での投稿とするか，学生が完全に自律的に運用するかは今後検討したい。

また，各イベントの際には広報用のチラシを作成しており，作成の一部をピアサポーター学生が担当した。デザイン作成作業となるため，好みの分かれるところではあるが，同じ立場の学生だからこそ訴求性の高いデザインを考えられるという意味でも，SNS運用と同様に，今後可能な範囲でピアサポーター学生が担当する割合を増やしていきたいと考えている。

3 上記以外の教職員の担当

第2章で述べたものの以外に、ピアサポート活動に関連して教職員のみが担当している業務も挙げておきたい。

まず1つ目は、ピアサポーターの養成である。これは古川（2024）でも述べた通り、現在2通りの養成を行っている。1つ目の養成ルートは全学共通科目で開講される「ピアサポート入門」を履修し単位取得した学生の内、希望する学生をピアサポーターとして登録するものである。なお、ピアサポート入門は2023年度はILASセミナーとして開講したが、2024年度からは後期に一般講義科目として開講している。授業担当は古川が行っているが、授業終盤に実施する、グループでのピアサポートプラン発表には、神代・三枚も参加し、発表内容へのコメントをしている。もう1つの養成ルートは、ピアサポート活動の概略について学ぶオンデマンド動画を視聴してレポートを作成し、グループの研修と教職員の面談を経てピアサポーターとして認定するものである。このルートの紹介のため、2023年12月、2024年6月の2回、ピアサポーター募集説明会を昼休みに行った。

また、ピアサポーター学生の活動に対する対価を支払うための事務手続きを行っている点にも触れたい。ピアサポーター学生の活動は完全に無償のボランティアではなく、責任を持って活動にあたってもらえるよう、イベント実施時にはオフィスアシスタントとして雇用し、僅かではあるが給与を支払っている。それに際して必要となる雇用・給与支払いに関する申請手続きなども行っている。

4 学生と教職員の協働・接点としてのピアサポート活動

学生が主体となって他の学生を支援するピアサポート活動であるため、支援する側もされる側もあくまで主役は学生である。教職員が業務として行う学生支援とはこの点が異なるが、ともすると教職員側は自身の立場からよかれと思い、大学が提供する学生支援に引き付けてピアサポート活動に関しても考えてしまいがちである。そのような傾向が強くなると、ピアサポート活動が教職員主導で行うものとなり、その実働部隊としてピアサポーター学生が駆り出される形となってしまう、ピアサポーター学生は「やらされている」という感覚を抱いてしまいかねない。この点については教職員がピアサポーター学生をサポートする際に留意すべき点である。企画立案などはピアサポーター学生が中心となってい、その実現のために障壁となるような学内手続きなどを教職員が担うという役割分担のようなものができることが望ましいが、前述した通り、まだピアサポート活動を開始して間もなく、またピアサポーター学生の数も決して多くないことから、現時点では教職員がある程度関与することもやむをえないと考えている。ただし、その際に教職員の考えを押し付けてしまわないよう、ピアサポーター学生の意見を優先するように留意している。

なお、筆者ら教職員と学生サポーターが接する機会は毎週実施している定例ミーティングの場が主なもののだが、正課の教育（授業・研究）や事務的な諸手続きを除けば学生と教職員が定期的に話し合いの機会を持つことはそれほど多くはないと考えられる。教育における評価者——評価対象者という設定ではなく、また事務手続きなどのためのやりとりではなく、フラットな形で大学生活をより充実させるためにどのようにするのが良いかについて話し合い、具体的な活動に落とし込んでいくプロセスは、学生と教職員の協働を促進していると考えられる。筆者たちは全て学生相談のカウンセラーであることも踏まえると、このような接点を持つことは、学生支援を行う教職員にとっては、来談学生に接しているだけでは見えない視点を得られ、来談学生とそうでない学生の区別なく、全ての学生を対象とする学生支援・学生相談について考え直す貴重な機会となっている。学生にとっても、京都大学という大きな組織の中で、教職員がどのような意図を持っ

て学生支援を行っているのかなど、日常的にはあまり知りえないことに接する機会になる。もちろん、専門的な学生支援の担当者というのは京都大学の教職員の中ではかなり特殊な存在ではあるが、そうであっても日常的に接する機会が少ないであろう教職員と協働する機会を持つことは意義があると考えられる。大学における教職員と学生の協働については、学生参加型 FD（服部，2012），大学図書館における協働（岡野，2020），学生・教員・職員の三者協働による FD/SD 研修プログラムの実施（関西大学，2024）など、様々な実践されているが、いわゆる廣中レポート（文部科学省，2000）が示した「教員中心の大学から学生中心の大学への視点の転換」を促すという意味でも、ピアサポート活動を通して教職員と学生の協働が進むことは重要だと考えられる。

5 おわりに

2023年度からピアサポート活動を実施し始めたが、ピアサポーター学生の熱意もあり、非常に精力的に活動を行ったと考えている。ただし、学内におけるピアサポート活動の認知度は決して高いとは言えないのが現状である。広報手段だけの問題なのか、実施する活動が学生にとって魅力的でないのかなど、様々な視点から検討し、京都大学でピアサポート活動が根付き、学生支援のインフラとしてごく当たり前のものとして機能していけるよう、教職員も引き続きサポートしたい。

【文献】

- 古川裕之．京都大学におけるピアサポート活動の導入とその意義．京都大学学生総合支援機構紀要．2024，3，19-29.
- 服部憲児．学生参加型 FD の現状と実践上の課題．大阪大学人間科学研究科紀要．2012，38，197-213.
- 関西大学教育開発支援センター．2023年度 三者協働（学生・教員・職員）による FD/SD 研修プログラムの最終報告会記録．関西大学高等教育研究．2024，15，135-143.
- 文部科学省．大学における学生生活の充実方策について（報告）——学生の立場に立った大学づくりを目指して——．2000．https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/012/toushin/000601.htm?a8=s7Jmh7cw.IMmtnJQWaLb5b23bw16MD3VSaMuc4tCquKw.IJ79bL7qbLNo41QYQXMFuHbe5J2F7Jmgs00000022012001（2025年8月26日取得）
- 岡野裕行．大学図書館における学生協働とは何か．情報メディア研究．2020，18（1），29-40.

【謝辞】

ピアサポーターとして活動する学生の皆さんに心よりお礼申し上げます。また、ピアサポーター・リプライボックスの設置や昼休みおはなし会の実施場所提供等、様々にお世話になっている吉田南総合図書館の皆さまに心よりお礼申し上げます。